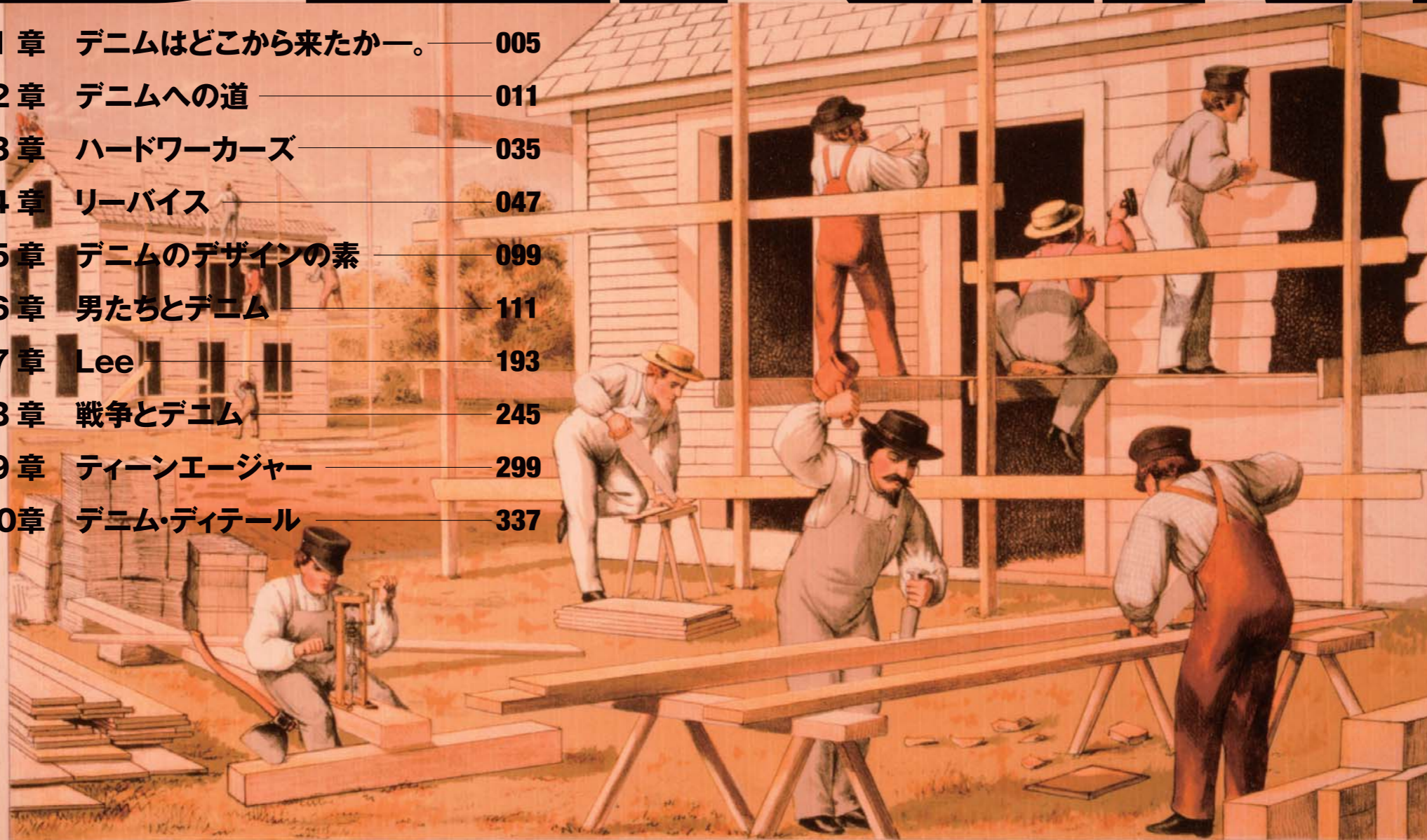


DENIM

第1章	デニムはどこから来たかー。	005
第2章	デニムへの道	011
第3章	ハードワーカーズ	035
第4章	リーバイス	047
第5章	デニムのデザインの素	099
第6章	男たちとデニム	111
第7章	Lee	193
第8章	戦争とデニム	245
第9章	ティーンエイジャー	299
第10章	デニム・ディテール	337



CARPENTER



ジーンズ1本とワークウェアだけをバッグに持って、流れ歩く労働者たちがいる。根なし草と呼ばれる彼らは、町はずれのクロッシングロードに立って次の目的地を決める。右を選ぶも、左に進むも気分次第の人生に、退廃の色

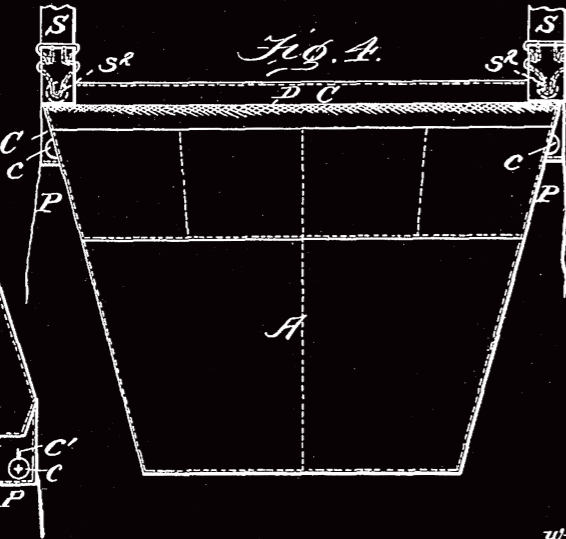
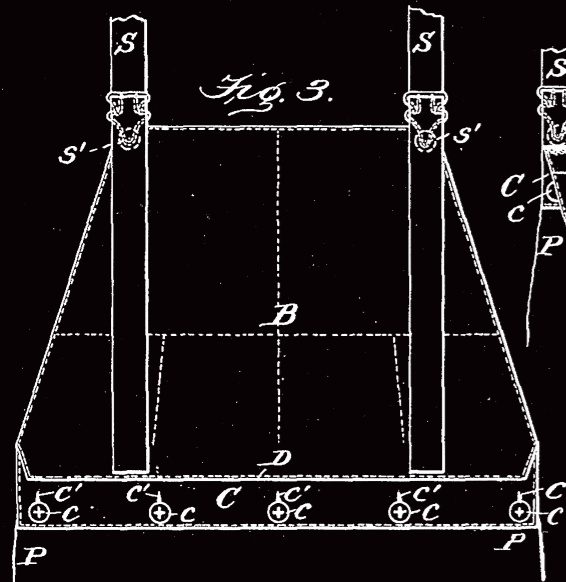
がつかない理由はなせだ。無茶をしてきた日々が遠くなって、日に晒された皮膚は深いしわを刻む。老いを消せなくなった日が来ても、ふさわしい場所が用意されている。それがジーンズのアメリカだと信じさせるものがある。

(No Model.)

S. W. BOONE.
OVERALLS.

No. 579,314.

Patented Mar. 23, 1897.



WITNESSES:

Edwin L. Bradford
Ralph W. Normelle

INVENTOR
Samuel W. Boone

BY
Robert A. Gacey
ATTORNEY.

オーバーオール胸当てのビブ部分は上半身をカバーして汚れを防ぐ。初期の頃はプレーンなビブだったところに次第に機能を持たせるようになる。そうした工夫の代表がポケットを付けることであった。この特許では野に出て働く時は胸をカバーするオーバーオールとして着て大工仕事などの作業をする時には、そのビブをひっくり返して着用する。裏側にはクギや工具を入れられるポケットがついているというもの。(US Pat.No.579314)

(No Model.)

W. COHLMAN.
TROUSERS OR OVERALLS.

No. 352,297.

Patented Nov. 9, 1886.

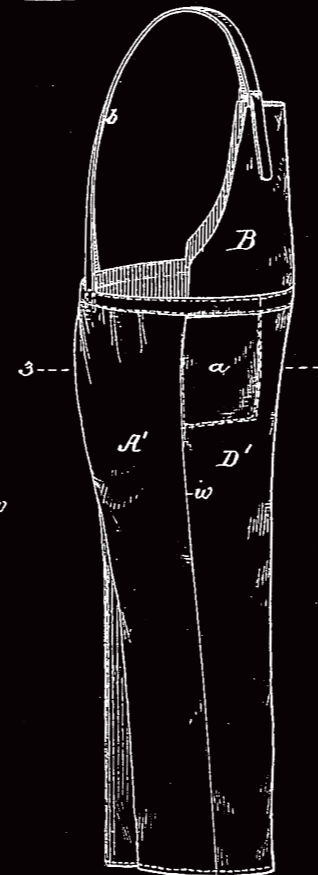
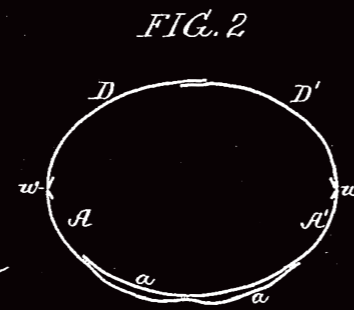
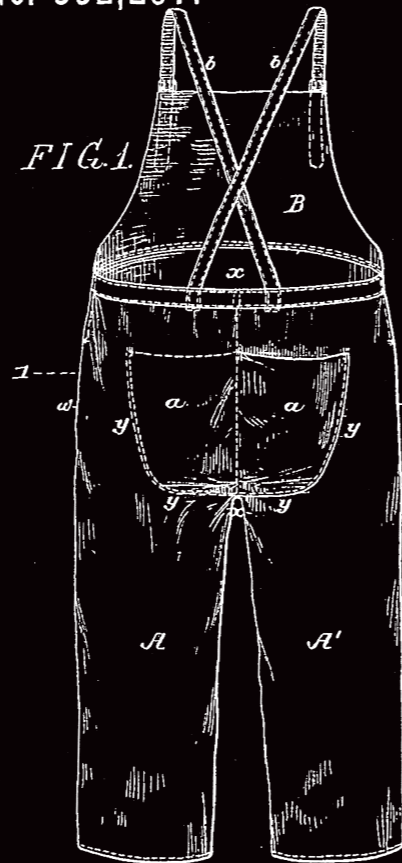


FIG. 4.

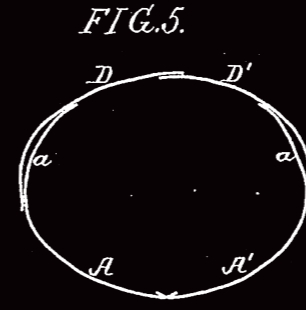


FIG. 5.

Inventor:
William Cohlman
by his Attorneys
Howery & Corp

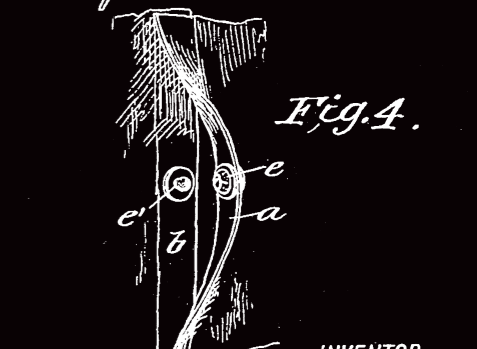
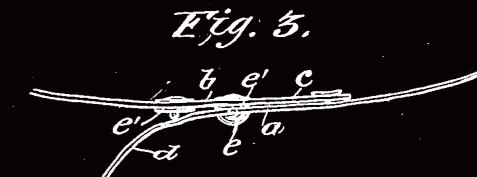
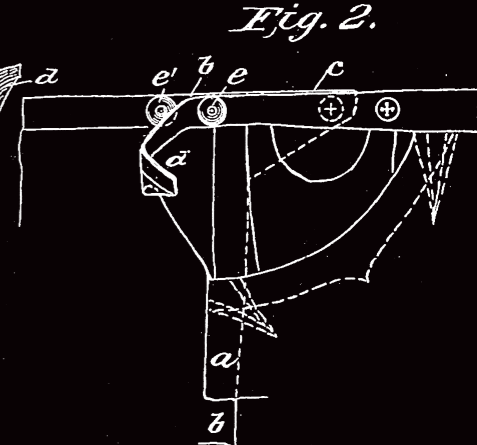
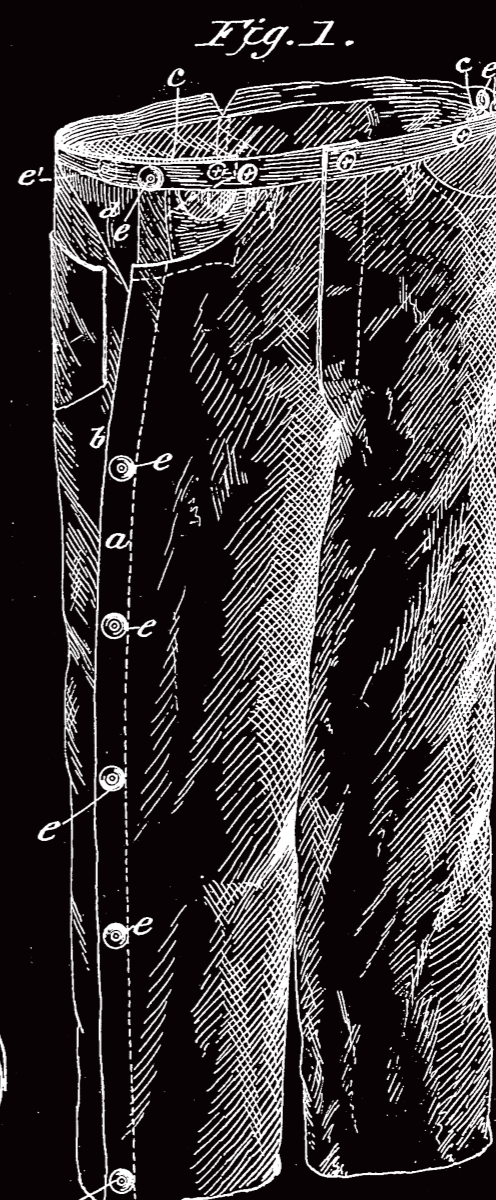
Witnesses:
William S. Converse.
John E. Parker

オーバーオールにはポケットが欠かせないものだが、貼り付けポケットを縫い付ける手間を省くことがこの特許を考案した理由だと記されている。その方法はなんと、後ろの尻部分の縫い目とポケットの1辺の縫い目を兼用するというもの。図に示されている結果は、ポケットがまるで尻当て布のように見える。ポケットの数はサイドの縫い目の方向に簡単に増やすことができるというもの。このオーバーオールは常に道具を手近に持っていたい大工や壁紙を貼る職人のために考案された。(US Pat.No.352297)
(No Model.)

P. J. LONERGAN.
OVERALLS.

No. 506,052.

Patented Oct. 3, 1893.



INVENTOR
Philip James Lonergan
BY
Munn & Co
ATTORNEYS.

特許図にあるオーバーオールは、バスケットボールの選手などがコートサイドで待機している時に着用しているウエアそっくりである。交代を告げられたら、すぐにバリバリとボタンを外してコートに飛び出していく時のあれだ。この特許を考案した人物はコロラド州デンバーに居住していた。特許の目的は、1度の簡単な動作で脱ぐことができ、ブーツや靴をはいたままでも着たり脱いだりができるようにするところにあった。(US Pat.No.506052)



アメリカ陸軍の文字を刻印したリベットボタンが、茶色のごつい生地に打ちつけられている。そこにあつたはずのU.S. ARMYの文字は崩れ去る寸前にある。また廃坑となった乾いた土のしたから掘り出されてきたジーンズは、インディゴブルーの色が薄れかかっている。それでも錆びかかったボタンは、しっかり生地に食い込み時の風化作用に抗い続けている。リベットを、そしてコパーボタンを生地に直接、打ち込む。それを受け止められる力を持つ生地がデニムだった。アメリカ国内はもとより遠くヨーロッパや世界のあちらこちらから、金の夢にとり憑かれカリフォルニアのブームタウンに集まった男たちの服だ。一獲千金の幸運は、ごく一握りの限られた男たちの上に降り注いだだけだった。山から山を渡り歩くうちに人生をすり減らし、夢を見続ける若さを失ってようやく泥水から上がる決心をつける。彼らは何も作らず、何も生み出すこともなく消えていった。夢を見続けるだけで終わった男たちがただひとつ残していったものがある。それがアメリカの働く男たちのユニフォームになった。フロンティアの最前線に立ち、自然の力に押しかえられてなお踏みとどまり、粗末な小屋で耐え抜いた人びと。原野と格闘を続け枕木を1本、1本敷くことでアメリカをひとつにつないだ鉄道工夫、牛を追い過酷なロングドライブの旅に上るカウボーイ、国を守る義務を果たすために命を差した兵士たちがデニムのワークウェアを着た。彼らが過ごしてきた時間と彼らの残してきた仕事が、デニムを特別な存在にした。時代を駆け抜け、世代の枠を超え、情報をもたらす流行の変化すらかわして生き残ってきた。しかも男女の性の区別さえ取り払った特異な服である。これからこの服に初めて出会う人間の生き方が、デニムに新たな魅力を与えていく。着た人の数だけ物語を残してきたデニムは、リベットを打ち込まれたときからその力を得た。それを最初に始めたアメリカにはいつか必ず来るはずの発見の時を待ちながら、どこかで眠り続けているジーンズが今もある。



ひとたび航海任務に就いた水兵たちは上手に緊張をほぐすことも必要になる。そんな時もっともリラックスできる格好はジーンズである。初期のブルーデニムのジーンズにはバックル付きのシンチベルトがあった。ウエストのフィット感を高めるためだが、第二次大戦時代の簡素化により姿を消し、やがて腰ヨークが登場する。